

'94 宮繕のあゆみ

6



沖縄県土木建築部施設建築室

目次

1.目次・あいさつ	1
2.特集(沖縄県公文書館)	2
(県立埋蔵文化財調査センタープロポーザル・エスキス競技)	7
3.工事紹介	
総務部	9
生活福祉部	12
環境保健部	13
病院管理局	14
農林水産部	16
商工労働部	17
観光文化局	17
土木建築部	18
教育庁	21
公安委員会	23
4.参考資料	
工事概要一覧	24
過去5年間の工事費及び工事件数推移	28
予算分任及び事業の流れ	28
5.沖縄県行政機関図	29
6.編集スタッフ・編集後記	30

あいさつ

公共建築物は、その用途上の機能や利便性をはじめ、地域におけるランドマーク、都市景観の形成、防災拠点といった様々な役割が要求されているところですが、これらは将来にわたり適正に保全されて始めて、その機能が発揮されるものです。こうしたことから、営繕行政には、時代の先端を予見し、社会の要請を取り入れ、人々の共有財産としての公共建築物の建設と保全にその責務を果たすことが期待されています。

さらに平成7年1月17日に発生した阪神・淡路大震災では、建築物の設計思想に新たな課題が提供されましたが、一方では、こうした災害時に公共建築物や公共空間が避難場所や復興拠点として活用されたことは、その重要性について再認識させられたところです。

本紙は、平成6年度に完成した沖縄県の公共建築物を取集掲載したものです。営繕行政及び発刊にあたってご協力いただきました関係者に深く感謝申し上げます。

平成8年3月
 沖縄県土木建築部施設建築室長
 山城佑啓

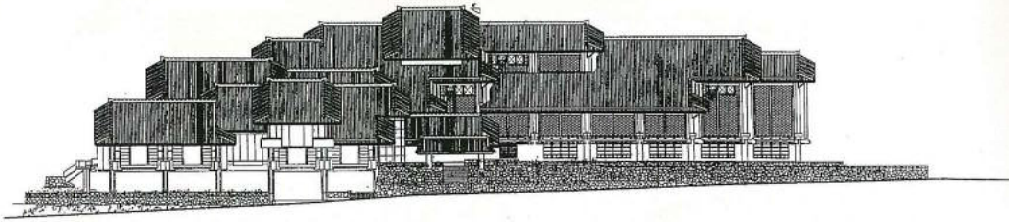


特集

沖縄県公文書館

所在地/南風原町
 工期/H5.12.24~H7.3.18
 構造/RC造(地上4階地下1階建)
 延面積/7,757m²
 総工事費/4,050,584千円





東側立面図

沖縄県公文書館は、県内の代表的文化施設となることを考慮し、平成4年度県内の設計事務所28社からなる2社14グループによる設計競技を実施し、その中から入選作品1点【(株)国建、(株)エーアールジー】を選定し、平成5年度実施設計を行った。

設置目的

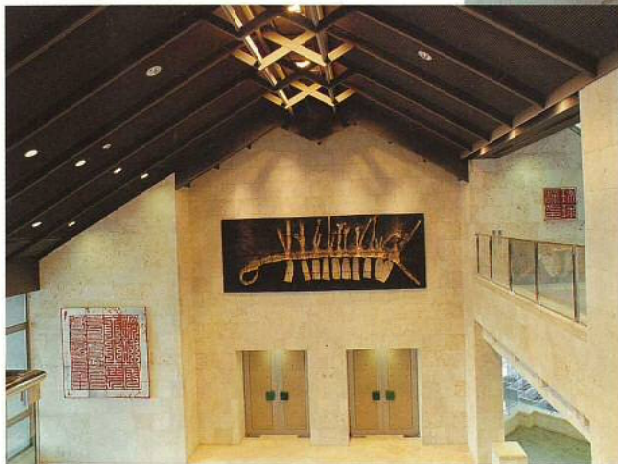
将来貴重な歴史資料となる公文書、その他沖縄の歴史に関わりのある資料等を体系的に収集・整理し、保存及び調査研究を行い、これらの公文書等を文化遺産として後代に伝えるとともに、広く県民の利用に供し本県の教育、学術、文化の振興並びに行政の発展に寄与することを目的とする。

基本理念

- ① 沖縄県独自の気候風土や伝統を加味したシンボル性の高い文化施設とし、周辺環境や自然環境との調和に配慮した親しみやすいものとする。
- ② 広い面積を有する車庫部分が無窓となるため、どうしても閉鎖的な施設になりがちであるので、イメージ的に開放感を感じられ、来館者にわかりやすく、利用しやすい施設とする。
- ③ 書庫の荷重を考え、構造的バランスに配慮し、かつ、耐震性、耐火性、耐湿性、風じん等に最大限に配慮すると共に、来館者と職員の動線を考慮した構造とする。



階段室



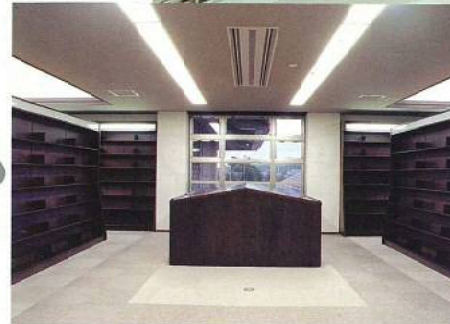
1階 コピー



2階 休憩コート



2階閲覧室



2階 参考資料室



1階 講堂



1階 EVホール(レリーフ)



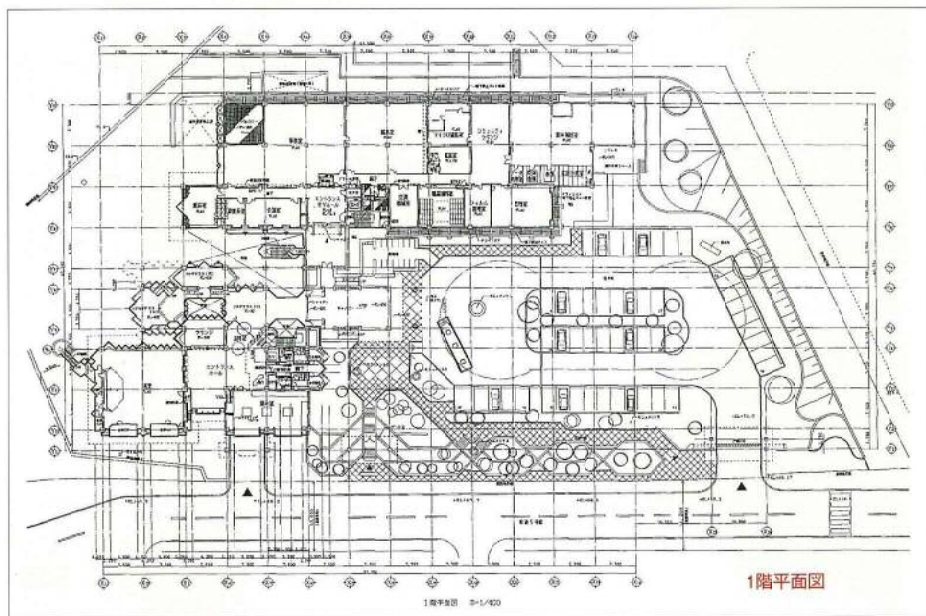
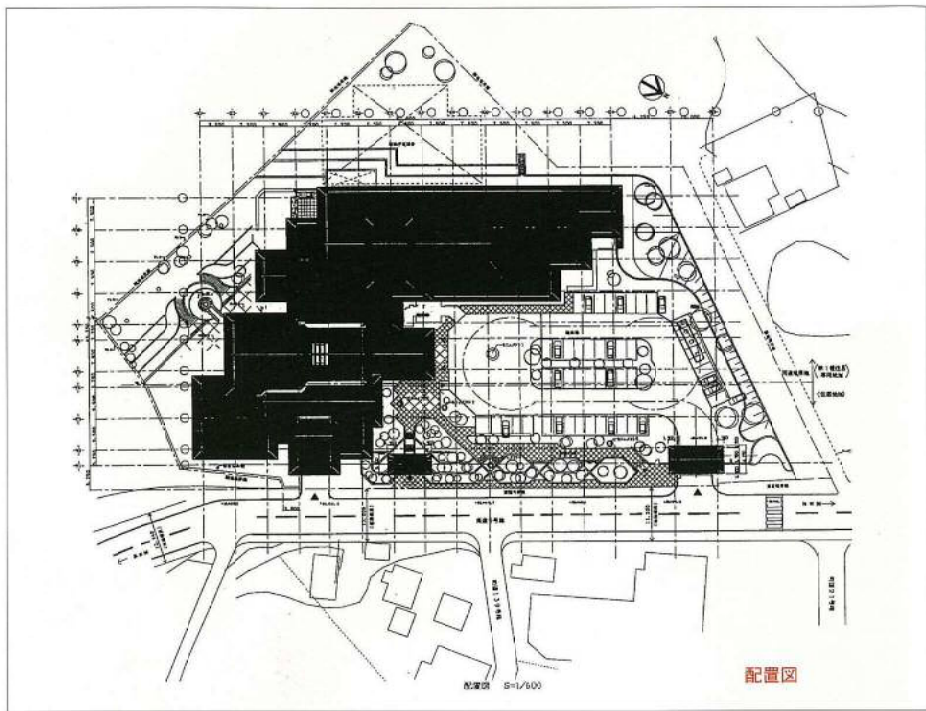
1階 展示室



レリーフ
「沖縄群島政府之印」



北側立面図



計画基本方針

1.設計理念

「祖先と歴史」・「保存と対話」の施設である公文書館を計画するに当たり、本施設は開館性(閲覧、展示)と閉鎖性(収蔵、保存)を重視し、また沖縄県独自の気候、風上と伝統を加味したシンボリックの高い施設を計画した。

2.設計方針

沖縄の原風景としてのブリグラ(高倉群藩)

- 古来々々、穀物の保存に高倉を利用した。
(本計画でも地上に取納庫を設け、湿気、雨水等の対応を計った)
- 屋根に伝統的沖縄瓦を急勾配に葺き、特に取納庫には屋根の谷を葺いた。
(沖縄瓦のベンチュレーションによる遮熱、雨水への対応)
- 壁面に、2重壁の外側に遮熱ルーバーを葺いた。
 真夏の強い直射日光の遮熱
 空気層を設けてベンチュレーションによる熱伝達の遮断による劣化の防止
 意匠的に無窓で閉鎖的収蔵庫に、気候、風上に向けたファサードを与えることができる

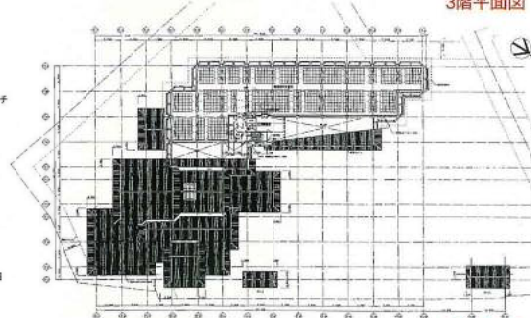
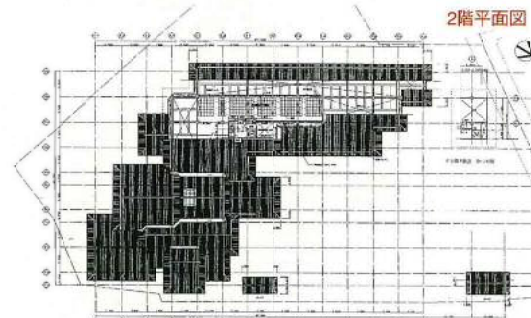
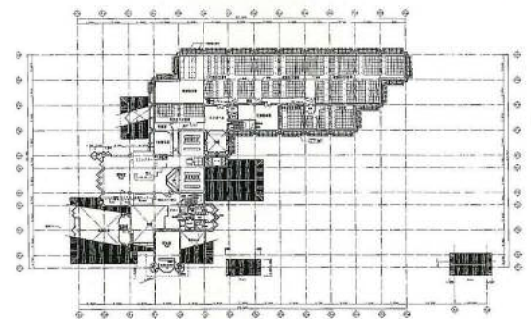
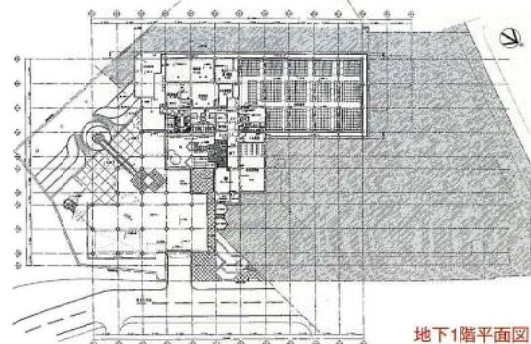
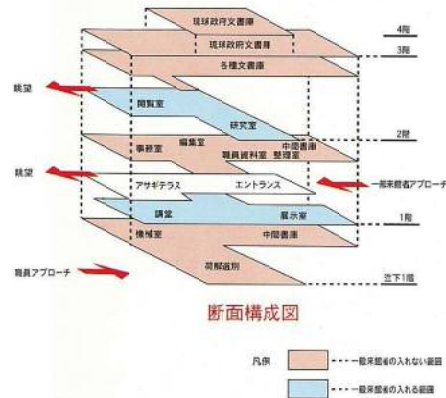
●景観的には、これらの収蔵庫の屋根を集合させ、沖縄の原風景の口にあるブリグラ(高倉群藩)をイメージした。

沖縄の質感の表現(イメージとしての沖縄)

- 石材-琉球石灰岩・・・・・・ポーチ、バルコニー、ペDESTリアン
- 瓦(花物)
- 樹木-フクギ・・・・・・道路沿い
- ホウキク・・・・・・駐車場
- アカギ、ハイビスカス・・・・壁面沿い
- 植物-沖縄在来瓦・・・・・・屋根
- その他-花ブロック・・・・・・一部壁面

断面構成

- 地下1階-乗員の駐車場及び出入口、公文書の搬入及び中間倉庫を配置
- 1階-来館利用者の駐車場及びエントランス、アサギテラス、事務室、講堂、展示室を配置
- 2階-眺望と静寂を考慮して、閲覧、複製室及び各種文書庫を配置
- 3・4階-構造的重さから比較的軽量(独立書架)な琉球政府文書庫を配置



特集

「県立埋蔵文化財調査センター」

プロポーザル・エスキス競技募集要項(妙)

趣旨

県立埋蔵文化財調査センターは、本県の埋蔵文化財関係機関のセンター的役割を果たす施設として、県内にある埋蔵文化財の調査、研究及び保存、活用を行い、埋蔵文化財の保護を図るとともに、文化財保護思想の普及啓発につとめ、もって教育、学術及び文化の向上と発展に寄与することを目的として建設するものです。

県内で唯一の施設である県立埋蔵文化財調査センターの建設にあたっては、調査研究関係諸室と収蔵庫との有機的連携を図るとともに、埋蔵文化財に関する研修や屋内及び屋外における展示を行い、県民文化の向上と発展に寄与する施設を目指すものであることから、県内公募によって、多様で意欲的な提案を求めるものです。

応募資格等

応募資格(以下の条件を全て具備して下さい。)

- 応募者は、県内に本所を置く一級建築士事務所または一級建築士事務所の共同企業体とします。
- 応募者の代表者は、一級建築士事務所の開設者とします。
- 応募者に所属する一級建築士の人数は、4人以上とします。

応募図書

提出すべき応募図書の種類及び作成要領

- プロポーザル関係図書(様式5~様式5-4、A4版)各10部
 - 使用する言語は日本語、横書きとし、文章等に読みやすい配慮して下さい。
 - 様式5-1については、簡潔にまとめて下さい。類似施設を優先しますが、それ以外の作品でも結構です。なお、総括担当者は、実際に県立埋蔵文化財調査センターの設計に携わる者として下さい。
 - 様式5-2については、様式5-1の作品について簡潔に説明文を書き、写真を貼付して下さい。
 - 様式5-3については、①~⑥の項目についてA4用紙6枚以内にまとめて下さい。イメージ図、図表等の表現は自由です。
 - 様式5-4については、基本及び実施設計の担当者を記入して下さい。
 - 様式5~様式5-4までをまとめて短刃側を2カ所ホッチキスで留めて提出して下さい。
- エスキス関係図書(様式5-5、A1版)1部
 - 各階平面図(1階平面図は、配置図を兼ねてもよい)、立面図(2面)、概略外観パースを見やすいように配置して下さい。
 - エスキスは、全てノンスケールまたはスケール入りでも結構です。パースは、無着色でも結構です。すべてフリーハンドでも構いません。
 - エスキスは、スチレンボードの台紙に貼って提出して下さい。
 - エスキス関係図書には、登録番号以外の住所、氏名、暗号その他いかなる認識表示も付さないで下さい。

審査委員名簿

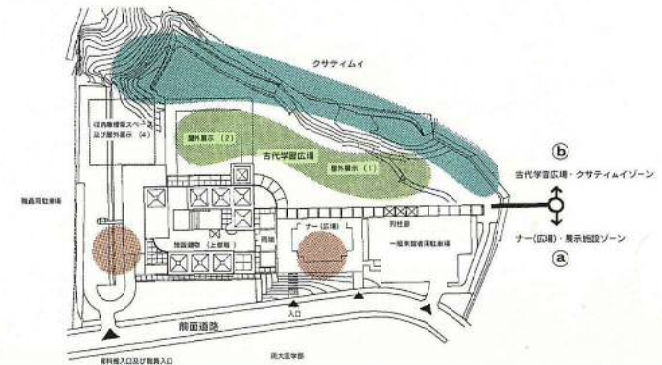
区分	氏名	所属・職名	区分	氏名	所属・職名
会長	鈴木 雅夫	琉球大学教授	委員	備瀬 ヒロ子	都市科学政策研究所
副会長	福島 駿介	琉球大学教授	委員	翁長 良盛	県教育庁教育次長
委員	田中 琢	奈良国立文化財研究所長	委員	金城 王光	県土木建築部参事
委員	嵩元 政秀	沖縄考古学会長			

最優秀賞

全体配置図

(株)ハウ設計集団・建築研究室ARKUS (有)長嶺構造センター 共同企業体

- 一般来館者のアプローチと、資料の搬入アプローチとは明確に分離することが当該施設の基本でありこれに対する全体配置として構成した。
- 敷地利用としては④=ナー(広場)+展示施設のゾーンと⑤=屋外展示+クサティマイのゾーンとに大きく分ける。管理上、④と⑤とは列柱廊により区分される。これは屋外展示の効果を考え、大きなスケールの建物群である琉大病院との区切りとして、空間バランスを得るためにも設定した。
- 又、④と⑤とは明確な区切りではなくむしろ一体的視界をとりたい。ナー(広場)は常時開放されていて、列柱廊越しに屋外展示ゾーンの展示物を望むことができる。広場に立つ人々に興味を持たせ、アピールするための空間構成とする。
- 当施設からは、過去の悠久な時間を連想させる本島の人々、森、海、街といった遠景を望むことができる。このことは、埋蔵文化財の背景に、想応わしいものとして、建物により最ざらぬ北半分のゾーンを古代学習広場として、利用する事とした。又、エントランスホール(1)からも屋外展示(2)越しに、こうした風景を望めるよう配慮した。



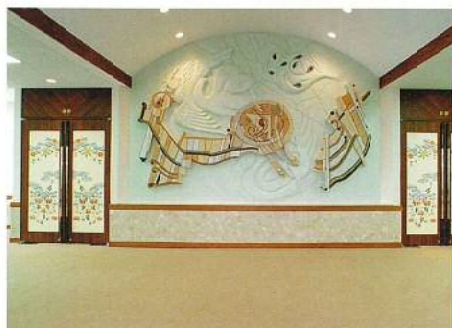


1階 舞台緞帳セット時

名称：沖縄県立芸術大学施設整備工事
(奏楽堂)

所在地／那覇市
工期／H6.3.31～H7.3.30
構造／RC造(地上2階地下1階建)
延面積／1,999m²
総工事費／1,688,093千円

首里城からの景観を重視し、建物の規模、高さ等について検討を行い、歴史的環境と調和を図るため、屋根は赤瓦葺き、壁は島尻石灰貼りによるデザインを行い、分節する手法により、建物のボリュームのスケールダウンを図った。



1階 ホワイエ



名称：沖縄県立芸術大学施設整備工事
(図書・芸術資料館)

所在地／那覇市
工期／H5.7.15～H6.7.31
構造／RC造(地上2階地下2階建)
延面積／4,093m²
総工事費／1,498,396千円

隣接する円覚寺への圧迫感及び首里城等の歴史的環境を考慮し、屋根は、寄せ棟赤瓦葺きで、分節化し、既存キャンパスとの視覚的統一のため「雨はじ」をモチーフとした構成により、周辺との調和を図った。



1F 開架閲覧室



B2F収蔵庫



2F 常設展示室



名称: 沖縄県自動車税事務所新築工事
所在地/浦添市 延面積/998m²
工期/H6.3.15~H7.3.30 総工事費/368,323千円
構造/RC造(地上2階建)



1階 ロビー



名称: 北部職員住宅改修工事
所在地/名護市
工期/H6.10.11~H6.12.9
構造/RC造(地上3階建)
延面積/—
総工事費/10,197千円



名称: 都屋の里改修工事
所在地/読谷村
工期/H5.9.28~H6.7.24
構造/RC造(地上2階建)
延面積/2,321m²
総工事費/668,882千円



本施設は、家庭で常時介護を受けることの困難な最重度の障害者を入所させ、治療及び養護を行う施設である。

重度の障害者が日常生活し、成長できるよう居住性や生活圏拡大を目指し、「やさしい」建築計画を行った。



名称: 白梅の塔便所新築工事
所在地/糸満市
工期/H7.1.6~H7.3.25
構造/RC造(地上1階建)
延面積/21m²
総工事費/10,899千円

